



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.jp/nodai/>

第 10 号 平成 24 年 6 月 1 日

香川県立農業大学校

〒 766-0004

仲多度郡琴平町榎井 34-3

TEL 0877-75-1141

FAX 0877-75-3989



楽しく創造的に学ぶ

校長 村上 啓一

本校は、農業教育を通じて、次の時代の農業を担う人材の養成を目的として設置された大学校です。前身の農業技術者養成機関を含めて本年百周年を迎え、この間、五千名を超え、多くの人材を育ててきました。

教育方針は、農場での生産活動を通じて学ぶ実践教育を基本とし、講義や実習に加えて、試験研究機関や先進農家で学ぶ機会も数多く取り入れています。

農業従事者の減少や高齢化が進み、一方で、農業法人の増加や農外企業からの参入が見られるなど農業をめぐる状況が大きく変化しており、これからの農業、そして変化する社会経済状況に対応できる新たな人材が求められています。

このため、時代に対応できる企業の経営感覚を身につけることができるよう、「アグリビジネス・マーケティング」

「グ論」や「パソコン簿記」等の講座とともに、一学年から農家実習を導入するなど、高度で実践的な知識・技術の習得に取り組んでいます。

また、農業法人等へのインターンシップ制度など、卒業後の進路支援にも努めています。

意欲ある皆様に、是非、楽しく創造的に学べる農業大学校で、より大きく成長して欲しいと思います。教職員一同、入学をお待ちしています。

創立百周年記念 事業開催計画

同窓会が主体になって後援会及び職員 OB 会で実行委員会を組織して記念事業を計画しています。

期日 平成二四年十月二七日(土)

事業内容 (場所)

記念講演 (十三時〜農大体育館)

記念式典・祝賀会 (十六時〜琴参閣)

参加申込・お問い合わせは、農業大学校まで

先進地視察研修報告

野菜園芸コース

野菜園芸コースでは、野菜の生産流通状況について調査を行いました。

農林水産技術センターでは、伝統野菜の種子保存の取り組み、京都青果合同株式会社では京野菜を専門に取り扱う部門の設置、産地の維持にも卸売市場が積極的に関わっている体制を学びました。

京都府の農産物ブランド認証制度、京野菜マイスター認定制度、京野菜検定により京都の伝統野菜についての認識を広めており、行政、農林水産業団体、流通業界が一体となって京野菜のブランド化に取り組んでいることを知ることができました。

高品質、少量流通をブランド化につなげている事例は、流通量の少ない本県野菜振興のお手本になるので

はないかと思われました。



花き園芸コース

花き園芸コースは名古屋市東山動植物園、有限会社プテリオおよび愛知県港花き地方卸売市場へ行きました。

名古屋市東山動植物園は昭和十二年に開園、歴史のある植物園で展示物は七千種。展示温室内では中南米原産や水生植物といったテーマに合わせたブーゲンビリアなどの植物が展示されており、学生たちは珍しい植物についてはボランティアガイドから説明を聞いて見聞を広めました。

有限会社プテリオは、日射制御型拍動灌水装置の製造販売を行っている愛知県安城市の企業です。日射制御型拍動灌水装置は節水が可能で、濁水に悩まされている香川県の農業に適応しているシステムであり、香川県立農業大学校でも卒業論文のテーマのひとつとして材料に用いています。今回はプテリオが新しく開発した「ソーラーパルサーE」について担当者との意見交換を行い、そのシステムの有用性について知識を深めました。

愛知県港花き地方卸売市場では、最新のシステムで制御されたせりの状況やその裏舞台を見学しました。担当者から、コンピュータによって制御されたせりの仕組み、香川からの荷物の入荷状況等について説明を聞き、香川県の花き生産における今後の課題を探ることができました。

果樹園芸コース



果樹園芸コース八名が東京都中央卸売市場大田市場並びに都内の百貨店及び高級果実専門店六店舗において、果実の流通販売状況の調査を行いました。

大田市場では、各産地から出荷された品物やせりの状況を見学しました。学生たちはその規模の大きさや輸出品の多様さに感嘆の声を上げていました。また、小売店舗における果物の陳列や販売促進方法、品質管理の仕方などについても学ぶことができました。接客店員の対応の細かさや商品

知識の豊富さに、果物生産とあわせて販売の重要性を改めて感じました。

仲卸、市場駐在の担当者から直に香川県の果物の特徴やその流通上の問題などを聞くことができ、中央（東京）から見た本県の果物に対する評価の一端を感じることができました。

この貴重な研修は今後の専攻実習や卒業論文をまとめる中に生かされることと思います。



造園緑化コース

造園緑化コースは、古くからの有名な日本庭園が集中している京都で、先進地

研修を例年行っています。

本年は、一年生三名が、一日目に、重森三玲（しげもり・みれい）庭園美術館、相国寺、二日目に、天龍寺、桂離宮を、そして、三日目には、修学院離宮、洛北蓮花寺、詩仙堂、銀閣寺を研修しました。

この中で、重森美術館は、昭和を代表する作家として有名な重森三玲の旧宅で、中央に蓬莱島を配した石と苔の地割で構成される枯山水庭園の力強い石組みが勉強になりました。

また、修学院離宮は、江戸時代に比叡山の山麗に造成された後水尾上皇の離宮で、水の流れを巧に利用した広大な庭園や大刈込みの生垣が印象に残りました。

このほかの庭でも、随所に日本庭園のすぐれた技法を見ることができ、今後造園を勉強していく上で大いに参考になりました。



畜産コース

「讃岐牛」の品質向上とブランド力の強化に取り組むため、県が導入した繁殖雌牛の地元鹿児島を視察研修しました。

まず行ったのは当地の老舗デパート「山形屋」で、価格調査結果から「鹿児島牛」は百グラム千五百円、「讃岐牛」に比べて安い理由としては、鹿児島では多くの和牛が生産されているため、出荷量も多くなり価格が安くなっていると思われました。

次いで伺った繁殖雌牛の里である「さつま中央家畜市場」は、全国第二位の子牛市場で施設も大きく、上場頭数も多

かった。子牛のせり価格が高い理由としては、優秀な種雄牛の血統を求め全国から購買者が沢山集まることでした。

最後に、国立鹿児島大学付属牧場「入来牧場」に伺い、野生牛「口之島牛」、天然記念物「トカラウマ」、絶滅危惧種「トカラヤギ」などの動物が広大な牧場で自然に近い状態で、動物にとってはすばらしい環境の中で飼われています。

今回の研修で、全国トップの牛の盛んな鹿児島の実態を調査した結果、香川の「讃岐牛」は規模的には比較になりませんが、銘柄としての評価は高いということが解りました。



校内卒業論文発表会

平成二四年一月十八日、校内卒業論文発表会が行われました。二年生は、専攻実習授業の中で課題を設定し、調査研究した結果を取

りまとめ、発表会に臨みました。学生たちは、持ち時間の中で研究成果や問題点、生産現場での実用性などを発表しました。

中国四国ブロックプロジェクト発表会

平成二四年一月二六日、二七日、広島県において開催されたプロジェクト発表会で、花き園芸コースの兼若諒君が「高冷地野菜と切花の複合経営を目指して」、果樹園芸コースの長尾守祐君が「キウイフルーツ「香緑」の樹上追熟の検

討」について発表しました。当日は、中国四国地域の九校から十八課題の発表があり、他県の生徒も持ち時間を十分に活用し、熱心な発表会となりました。夜は各県の参加者が料理を囲んでの交流会となり、恒例の学校紹介では、野菜園芸コースの富田君と花き園芸コースの大山君が、本校での学習・実習内容や学校行事について紹介しました。交流会の最後には、次年度の中四国ブロックプロジェクト発表会を香川県で開催することを紹介しました。

コース	氏名	課題名
野菜園芸	岩倉 裕貴	エダマメの品種比較による次期作目の選定
	大宮 直之	育苗ポットの違いによる花芽分化の影響について
	川西 祐馬	「食べて菜」の株間の違いが収量・生育に及ぼす影響
	白川 隆志	グリーンアスパラガスの改植方法の検討
	田井 真登	竹チップの施用が青ネギの生育に及ぼす影響
	續木 美幸	三相分布で比較する土壌改良法
	早川 知里	青ネギのえそ条斑病を媒介するネギアザミウマの防除
	三宅 一幹	タマネギ栽培における、収穫作業&定植作業機械化による省力化調査
	宮本 佑樹	間欠冷蔵処理がイチゴの生育収量に及ぼす影響
	宮本 佑磨	夏作ミニトマトの生産安定技術の確立
	山口 祐哉	拍動自動灌水装置によるオクラの省力化栽培
	吉森 翼	アップカットロータリーによる耕耘がレタスとブロッコリーの生育に及ぼす影響
淀 方寿	量販店販売に適したキャベツ優良品種の検討	
花き園芸	太田 憲秀	夏ギク「夏氷河」(白輪ギク)の盆出荷作型における栽植密度の検討
	岡 有起	改良型拍動灌水装置を用いたトルコギキョウ栽培の検討
	兼若 諒	高冷地野菜と切花の複合経営を目指して
	玉井 佐歩	コショウランの冷房育苗を用いた開花調節技術の確立
	藤田 希	ポインセチア 2 寸鉢におけるわい化剤処理が品質に及ぼす影響
	渡辺 望	ヒマワリの蕾切りによる開花調節技術の検討
果樹園芸	内原 諒	「加納岩白桃」における無袋栽培が果実品質に及ぼす影響
	大井 龍太郎	温暖地域での環状剥皮・透明果実袋併用による「安芸クイーン」着色不良改善
	九富 慎太郎	ブドウ「サニールージュ」における着粒数の違いが果実品質に及ぼす影響
	瀧井 文実	ナシ「幸水」の安定生産のための 1 回摘果による果実品質調査
	谷澤 晶子	極早生ウンシュウ「ゆら早生」のかん水適期の検討
	出濱 裕太	キウイフルーツ新品種「さぬきエンジェルスweet」に対する環状剥皮処理時期が果実に及ぼす影響
	長尾 守祐	キウイフルーツ「香緑」の樹上エチレン反応の検討
	平岡 拓也	フィガロン散布がカキ「太秋」の着色に及ぼす影響
造園緑化	大林 良輔	グラウンド改修
	木岡 真希	森林センター小庭園の竹垣作成
	小松 采加	オリーブ挿し木繁殖の効率的生産技術の検討
	平野 貴浩	ガーデンフェスタ「初めて挑む和風庭園」出展
	藤澤 秀聡	テニスコート前休憩所の整備(屋根の取り付け)
	藤原 良介	3号庭園における新たな庭園の作成
	町川 雄生	出水整備の進捗状況
	山中 瑤介	盆栽松生産と盆栽見本園の改修
	吉田 勝彦	テニスコート前休憩所の通路改修と手洗い場の施工
畜産	堀 篤史	自然哺育における黒毛和種の早期離乳試験



平成二三年度卒業式

三月一日、第三五回卒業式が浜田知事出席のもと盛大に行われ、担い手養成科学生三七名と技術研修科研修生二二名が卒業しました。

校長から「大きな変革を向かえた社会で、本校で得た知識、技術、体験を活かし、将来の目標に向かって歩んでいってほしい」と式辞があり、知事からは「研鑽を積み、次代の農業・農村を担うリーダーとして活躍を期待したい」と激励がありました。

卒業生を代表し、果樹園芸コース長尾守祐君が、ふれあい市での交流の思い出などと、「二年間で得た体験や友情は大きな財産です。この体験を心の支えにして、社会に第一歩を踏み出します。」と誓いました。

担い手養成科卒業生の進路は、自営・法人就農十二名、農業関連会社十名、その他企業七名等でした。

学校行事予定

○オープンキャンパス

参加をご希望される皆様
がご来校しやすくなるよう、
日曜日にも開催いたします。

七月七日(土)、七月二十九日(日)
八月十日(金)、八月二十二日(水)

○農大ふれあい市

農業大学校内で、学生が
企画したバザーや生産物な
どの即売と、学校案内を開
催いたします。

十一月十日(土)

午前十時半から午後二時

(駐車場に限りがあります
ので、公共交通機関にてお
越しく下さい。)

活躍する卒業生

坂井 達哉さん

坂井さんは平成十八年
度野菜園芸コースを卒業
後二年間の教育助手を経て、
(有)香川農園に勤めてい
ます。

香川農園は坂出市大屋
富地区で露地を中心に金
時ニンジン、カンショ、

ダイコン、レタス、ブロッコリー等を約二五ヘクタール作付けている農業法人です。外国人研修生も十名程度働いており、そのような中で、坂井さんは農業機械の取り扱いおよび農作物の栽培管理全般を任されています。

坂井さんは、将来就農することを目的に農業大学校に入学しました。卒業論文では、就農時に役立つようにと「自主企画ほ場の野菜栽培と農場経営の実践」と題し、大学校内の自主企画ほ場(五〇〇㎡)について、自分自身で作付計画から農産物販売までを行い、計画的作業の実践や習得に取り組みました。その後、教育助手として二年間学校に残り、後輩への指導に当たりながら、更なる技術習得を図りました。そして、農業大学校で学んだ技術を確固たるものとするために、(有)香川農園に就職し、実践経験を積んでいます。

現在、坂井さんの実家は両親が中心となつて米とレタスを作付けていますが、数年後には独立し、有限会社香川農園で身に付けた技術を活かしてレタスやブロッコリー等露地野菜を中心とした大規模経営体を目指しています。

将来は学生の専攻実習を受け入れてもらえるよう、活躍してくれることを祈ります。



技術研修科活動状況

技術研修科では平成二四年度の就農実践研修生として十七名、就農準備研修一期生として二七名、職業訓練の三ヶ月の農業科として九名が四月に入学しました。そのうち野菜コースを選考しているのは四四名です。

毎週、月・水・金曜日に分かれての農場実習ですが、野菜コースの春は収穫と春夏野菜の定植で大忙しです。四月から五月上旬にかけてはダイコン、レタス、人参等の収穫と出荷調整を午前中に行い、午後からは定植の準備です。これから夏に向け、作業も厳しくなりますが、大きく育つ野菜も研修生も楽しみです。



技術研修科
活躍する修了生



坂出市高屋町でUターン農業に精力的に取り組む藤川雄司さん(三三)は、平成二三年度の本校研修科野菜コースで一年間野菜栽培の研修を受けました。都内の大手電機メーカーで十二年勤め、二三年四月から実家で両親と共に野菜栽培に取り組みべく香川に帰ってきました。農業の経験は手伝い程度であったため、野菜栽培について学ぶため農業大学校に入学されました。両親が野菜栽培で規模拡大を図っており、研修期間中もアスパラガス、レタス、ブロッコリーと家の農作業が忙しい状況でしたが、本校の研修にも参加されました。当面の作付け規模はアス

パラガス十アール、ミニトマト三アール、レタス二ヘクタール、ブロッコリー二ヘクタール、水稲三五ヘクタールですが、自分が農業をすることにより、親と部門の独立をして少しづつ規模の拡大を目指すことにしています。藤川さんの近隣には県下を代表するような大規模農家が数軒あり、その人たちを目標に農業に取り組みたいそうです。また、二三年度から、藤川さんは本校の学生と研修生を受入れており、ご両親と共に現場作業の要領や栽培技術についての確にご指導をいただいております。本稿作成時はブロッコリー、アスパラガスの出荷調製、採取ニンジンの管理作業、水稲の作業で忙しい日々を過ごされています。部門経営で規模拡大を目指す藤川さんの今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

農業大学校教職員名簿

- 校長 村上啓一
- 副校長 合田雅和
- 総務研修課長 氏家 敬
- (庶務・経理担当)
- 副主幹 宮西恵子
- 主任 松岡朋子・宮武利明
- 庁務 三井典子・高橋利治
- (研修担当)
- 教授 瀧川裕史・准教授 岩井由加理
- 教授 中條秀俊・次田 求
- 教務課長(兼) 合田雅和
- (学務・農場担当)
- 教授 牛田 均・河田和利
- 主席技師 野村和親
- 農業管理 吉原桂子・山本雅之・末澤賢二
- (野菜園芸コース)
- 教授 野田啓良・准教授 小河原良文
- 教育助手 吉森 翼
- (花き園芸コース)
- 教授 村口 浩・河江正明
- 教育助手 早川知里
- (果樹園芸コース)
- 教授 大林 巧・准教授 氏家英樹
- 教育助手 内原 諒
- (造園緑化コース)
- 教授 大西孝志・矢野 清
- 教育助手 大林良輔
- (畜産コース)
- 教授 高原稜夫